

事務事業 No./名称	<input type="checkbox"/> サービス部門 こども-23 育成事業 <input type="checkbox"/> 支援部門				タイムスコード及び個別事業名		
	主管課				176	育成事業	
分野名	青少年課 関連課				1382	育成事業	
目標 (目標値)	成人のつどいや青少年育成事業の充実。青少年指導員など関係機関との連携強化。						
人口等の データ	データ区分	21年度	20年度	備考			
	人口	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)			
	世帯数	78,131世帯	77,430世帯				
	7~20歳の人数	19,791人	19,540人				
運営資源 状況	決算値	6,702千円	7,286千円				
	(国・県)	245千円	489千円				
	(負担金等)						
	(一般財源)	6,457千円	6,797千円				
	人員配置数	1.6人	2.0人				
	人件費	15,649千円	18,067千円				
	協働の パートナー	・青少年指導員連絡協議会 ・青少年協会	・青少年指導員連絡協議会 ・青少年協会 ・こども会育成連絡協議会				
事務事業 運営経費	総事業費	22,351千円	25,353千円	指標と評価			
	市民1人当りの経費	127円	144円	指標	子ども会支援数(補助金)		
	対象者1人当りの経費	1,129円	1,297円	評価	○		
	ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名					
創意・工夫・課題等 改善状況	課題・問題点	(21年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・鎌倉市子ども会育成連絡協議会(市子連)が解散し、市と各子ども会とのつながりが希薄になった。 ・青少年育成のための取り組みの継続。 ・子ども・若者が健全に育成できる環境整備の基本的方向性を定める必要がある。					
	創意・工夫・課題等の改善点 21年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ・市内各地域の子ども会へ運営費等の助成の周知に努めた結果、被補助団体(子ども会)が増加するなど、子ども会活動全般への支援を図った。 ・平成21年8月に子ども・若者育成プラン策定委員会を設置し、子ども・若者が健全に育成できる環境整備における、基本的方向性を定めることとなった。					
	未解決の課題・問題点	(21年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・平成20年度末に市子連は解散したため、市内の子ども会を取りまとめる組織がなくなった。 単位子ども会とどのように連携をとるかが課題である。 ・国が定める「子ども・若者育成計画」の動向を注視しつつ、鎌倉市における「子ども・若者育成計画」を策定する必要がある。					
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・少子化のなかでのニーズの把握に努め、引き続き子ども会活動への助成を強めていく。 ・子ども・若者の育成のためのよりよい環境を整備するため、子ども・若者育成支援推進法に定める「子ども・若者育成計画」を平成23年の早い時期を目途に、策定することになった。					
一次評価(課長評価)				二次評価(部長評価)			
A:充実又は拡大 B:現状のまま継続 C:統合又は縮小 D:廃止又は休止 E:事業完了							
評価結果	改善の必要性	青少年の健全育成の課題はますます重要になっている。このため、青少年のニーズの把握に努め、引き続き多様な事業の推進を図りたい。また、平成23年度の早い時期までに、(仮称)鎌倉市子ども・若者育成プランを策定したい。			評価結果	改善の必要性	青少年健全育成は重要課題であり、青少年団体等への支援を積極的に継続するとともに、鎌倉市としての青少年の健全育成の行政指針である(仮称)鎌倉市子ども・若者育成プランを平成23年度の早い時期までに策定したい。
B	有				B	有	
課長名	山田 幸文			部名・部長名	佐藤 尚之		